

婦人科領域に関する 公衆衛生学的研究

秋田大学医学部医学科6年次 太田友



目次

- 研究を開始した経緯
- 研究活動の実際
 - 1日のスケジュールと指導体制
- 研究の時間経過
- 今後の展望



研究を開始した経緯

- 産婦人科に興味があり、関連したテーマを扱っている研究室を探した。
- 衛生学・公衆衛生学講座に出入りしている先輩に面倒見が良い研究室であると聞いた。
 - 野村教授に相談し、HPVワクチン接種意思や月経随伴症状に関する研究を行うことにした。



研究活動の実際 – 1日のスケジュール

【平日】

8:00-17:00 授業 or 実習

17:30-19:00 公衆衛生学講座で研究

20:00-23:00 家で解析など研究の続き

【休日】

介入途中, 論文作成期間は約5-8h



研究活動の実際 – 指導体制

【平日】

8:00-17:00 授業 or 実習

17:30-19:00 公衆衛生学講座で研究

→野村教授に直接質問やDiscussion

20:00-23:00 家で解析など研究の続き

【休日】

介入途中, 論文作成期間は約5-8h

→野村教授にメールで質問
: 休日でもすぐに返信いただき
速やかに研究を進めることができた



募集案内の作成 他大学へ参加の打診

秋田県の大学生および大学院生の皆様へ

アンケート参加者を募集しています！！

※ お申込み期間；4月1日～6月30日
まで

【調査対象者】

HPVワクチン未接種あるいは**HPVワクチンが3回接種に満たない18～35歳**までの秋田県立の日本人男女大学生と大学院生

※来年度に卒業される方も参加できます。申し訳ありませんが外国籍の方はご参加いただけません。

【協力していただきたいこと】

計3回のアンケートへの回答です。（申し込み後すぐ、その後1,3か月後）

【謝礼】

1回のアンケートにつきQUOカード500円

（全3回のアンケート回答で最大1500円分）を進呈しています。

アンケートはHPVワクチンに関するアンケートで、一回あたり5分程度です。

LINEで情報を受け取る群になった場合はメールでお知らせするLINEのオープンチャットに入っています。

途中で辞めなくなったらいつでも辞めていただけますので、気軽に参加ください！

内容を確認したい人、あるいは興味のある方

<http://www.med.akita-u.ac.jp/~pbeisei/HPV.html>

説明文章（調査のながれ、具体的な内容）を掲載しています

参加希望の方は申し込みはこちら

<https://forms.gle/SVZMLJ6spJYFN6if6>

右のQRコードからも申し込みフォームに飛べます。



↑参加申し込みフォーム

問い合わせ先：秋田大学医学部公衆衛生学講座内 研究事務局

住所：秋田県秋田市本道1-1-1

TEL：018-884-6087(代表)

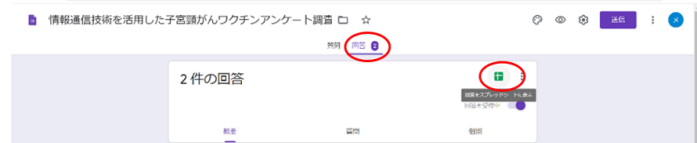
Email：akitaHPV2020@gmail.com

学生チーム用の マニュアル作成

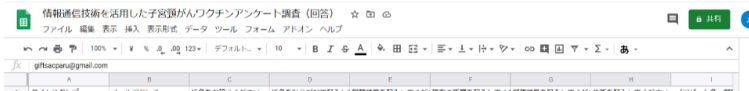
初期対応マニュアル

Google form からの申し込みが入ってから、同意書、同意撤回書とベースライン調査を送るまで

- 1 akitaHPV2020@gmail.com(パスワード 2020hpvAKITA)にログイン、Google ドライブを開く
- 2 「〈google form 申し込み〉→情報通信技術を活用した子宮頸がんワクチンアンケート調査」を開く
- 3 「回答→回答をスプレッドシートに表示」でスプレッドシートが開く



- 4 年齢が35歳未満か、日本人かを確認する。該当していればメールアドレス以降をコピーする。該当しなければ「この度はせっかく調査に申込みいただきましたが、残念ですが、〇〇さんは調査対象となりません。あしからずご了承ください。」のメールを送る。



介入資料の作成

秋田大学 パブリックヘルス通信

HPVと子宮頸がんワクチン

ヒトパピローウイルス(HPV)とは

ヒトパピローウイルスの感染は、子宮頸がんや良性のいぼ(尖圭コンジローマ)などの原因となります。日本では毎年約8,500人の女性が子宮頸がんにかかり、約2,500人が死亡しています。20代後半から患者数が増え、40歳前後でピークになります。HPV はごくありふれたウイルスで、性交渉の経験がある男女では、50%～80%は、HPV に感染していると推計されています。性交渉を経験する年齢になれば、男女を問わず、誰でもHPV に感染しますし、誰でも女性であれば、子宮頸がん。男性でもヒトパピローウイルスの種類による症状(がんを含め)を発症する危険性があります。一般の方の中には「性的な活動が高くなれば HPV に感染しない」「結婚まで性交渉をしなければ子宮頸がんにならない」と誤解されている方も見受けられます。しかし性交渉の機会やパートナーが限られている方でも、16 型・18 型などの高リスク型の HPV に一度でも感染してしまうと子宮頸がんを発症する可能性があります。

子宮頸がんとそれ以外のがんを引き起こします

ウイルスには多くの型がありますが、その中でも少なくとも15種類はがんを引き起こす高リスク型ヒトパピローウイルスと呼ばれ、特に16型と18型が子宮頸がん全体の3分の2以上の原因となっています。ヒトパピローウイルスは、女性には子宮頸がん以外にも、陰茎、外陰部、肛門、そして喉頭(のど)のがんを引き起こします。また、男性にも陰茎、肛門、そして喉頭のがんを引き起こします。尖圭コンジローマはカリフラワー状の良性のいぼを性器に起こします。多くは、HPV16型と11型によっておこり、患者数は国内で年間55,000人と推定されています。

注：日本産科婦人科学会「無っておきたいHPVと子宮頸がん」
日本産科婦人科学会 子宮頸がん予防検診サイト
若狭 芳樹 著「ヒトパピローウイルス感染(HPVワクチン)」
みんパピ <http://minpapi.jp/>

どうやって HPV を診断するの？

子宮頸がんやその前がん病変の診断は、子宮の入り口をこすって採取する『細胞診(パップテスト)』が用いられます。子宮頸がん検診は、細胞診に加え、ヒトパピローウイルスの遺伝子があるかどうかの検査を組み合わせて行うことがよくあります。細胞診で陽性であった場合には、病院についてさらに組織を撮って顕微鏡で観察(組織診あるいは生検)し診断を確定します。成人女性にとって、子宮頸がん検診を受けることは子宮頸がんを早期に見つける点で重要です。

どのように感染しますか？

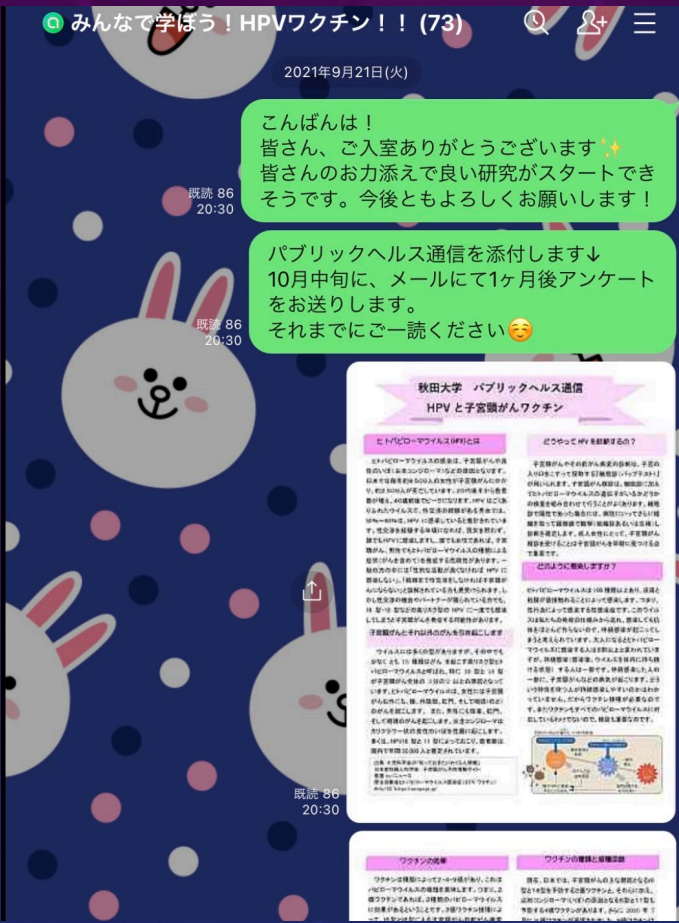
ヒトパピローウイルスは100種類以上あり、皮膚と粘膜が直接触れることによって感染します。つまり、性行為によって感染する性感染症です。このウイルスは私たちの免疫の仕組みから逃れ、感染しても症状をほとんど作らないので、持続感染が起こってしまうと考えられています。大人になるとヒトパピローウイルスに感染する人は8割以上と言われていますが、持続感染(感染後、ウイルスを体内に持ち続ける状態)する人は一部です。持続感染した人の一部に、子宮頸がんなどの病気が起こります。どういった特性を持つ人が持続感染しやすいかはわかっていません。だからワクチン接種が必要なのです。またワクチンもすべてのパピローウイルスに対応しているわけではないので、検診も重要です。



介入方法の検討

統計の勉強会

解析および論文化



RCT(ランダム化比較試験)

4017593 藤田望

RCT(ランダム化比較試験)とは

介入研究の際、介入群と対照群を分ける方法としてランダム化(無作為化)を用いているもののこと。

※介入研究・・・実験的な予防・治療・介入を受ける介入群と受けない対照群(非介入群)とを設定し、両群のアウトカム(罹患率、死亡率、その他の指標など)の比較によって評価を行う。

↓

非ランダム化比較試験

主治医、病棟、病院など恣意的に治療群と対照群を割り付ける。両者の性質に偏りが生じやすくなり、結果に影響が生じる恐れがあるためランダム化比較試験よりもエビデンスレベルが低い。

↑学生チームメンバー
藤田望さん(現卒1年目)作成

- ・ 先生方とのDiscussion
- ・ 学会発表
- ・ 添削

Article

Influence of LINE-Assisted Provision of Information about Human Papillomavirus and Cervical Cancer Prevention on HPV Vaccine Intention: A Randomized Controlled Trial

Yu Ota ¹, Kyoko Nomura ^{2,*}, Nozomi Fujita ¹, Tomoya Suzuki ¹, Makoto Kamatsuka ¹, Natsuya Sakata ¹, Kengo Nagashima ³, Junko Hirayama ², Naoko Fujita ⁴, Kuniko Shiga ⁵, Noriaki Oyama ⁶ and Yukihiro Terada ⁷

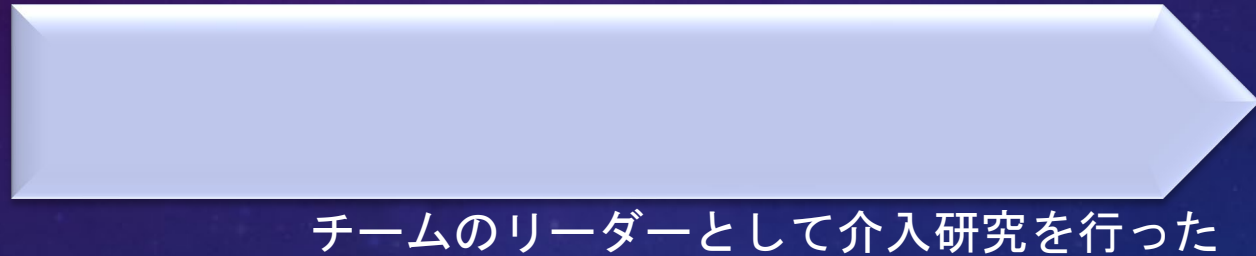
¹ School of Medicine, Faculty of Medicine, Akita University, Akita 0108543, Japan
² Department of Environmental Health Science and Public Health, Akita University Graduate School of Medicine, Akita 0108543, Japan
³ Biostatistics Unit, Clinical and Translational Research Center, Keio University Hospital, 35 Shinanomachi, Tokyo 1608582, Japan
⁴ Laboratory of Plant Physiology, Department of Biological Production, Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita 0100195, Japan
⁵ Japanese Red Cross Akita College of Nursing, Akita 0101493, Japan
⁶ Department of Gynecology, Akita Red Cross Hospital, Akita 0101495, Japan
⁷ Department of Obstetrics and Gynecology, Akita University Graduate School of Medicine, Akita 0108543, Japan



研究の時間経過



テーマ①
HPVワクチン接種意思に
関する介入研究



2022.11.21
アクセプト

テーマ②
月経随伴症状と就労の関係



研究の時間経過

魁新聞

HPVワクチン「直ちに接種」わずか6% 秋田大チーム、大学生の意識調査

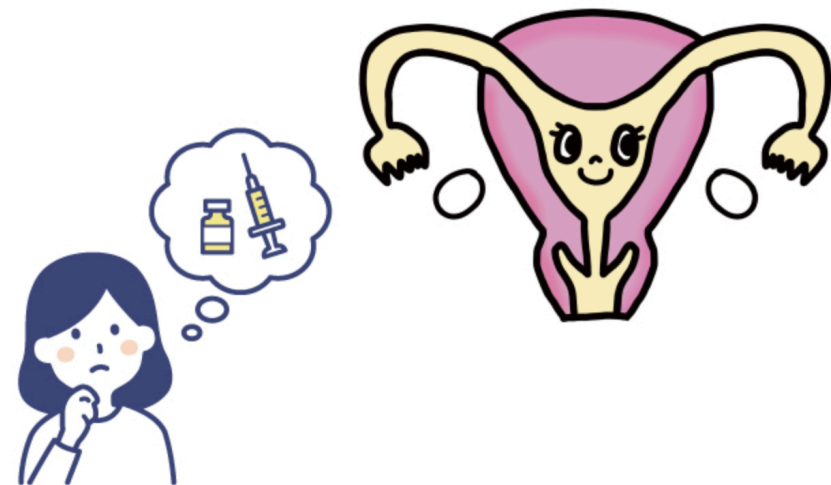
会員向け記事 2022年11月5日 掲載 2022年11月5日 更新



研究に取り組んだ(左から)野村教授、鈴木さん、太田さん、藤田さん

a. woman(秋田市の女性を取り上げたサイト)

【a.woman保健室】子宮頸がんワクチン、受ける？ 受けない？



近年、20~30代の若い女性に増えてきている**子宮頸がん**。ワクチンで**予防できる病気**ですが、副反応の報道の影響が大きく、安全性が確認されたあともワクチン接種率は1%未満と低いままで。「**正しい情報を入手して、自分の体を守ってほしい**」との思いから、子宮頸がんワクチンの接種意思を調査した秋田大学医学部5年生の**太田友**(おた・ゆう)さんに、子宮頸がんという病気や、その予防法について、お話をうかがいました。



今後の展望

研究テーマであるHPVワクチンや月経随伴症状について社会的な動向を追っていききたい。



ご清聴ありがとうございました。

